

桑名の市民団体

シジミ生態調査

専門委
共同座長 長良川河口堰を視察

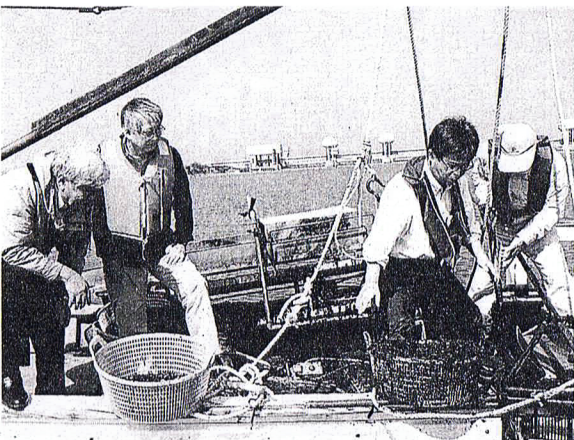
長良川河口堰と生態系の関係を調べている市民団体「しじみプロジェクト・桑名」のシジミ生息調査が9日、河口堰周辺で行われ、河口堰の開門調査の是非を審議する愛知県専門委員会共同座長の

小島敏郎、今本博健両氏が視察した。河口堰を巡っては同専門委が9月、「5年以上の開門調査が必要」との提言を盛り込んだ報告書案をまとめている。市民団体によると、木曾川、長良川、揖斐

川の木曾三川はかつて日本有数のシジミの産地だったが、塩水の遡上防止や治水、利水開発を目的とした河口堰の運用開始以来、長良川での漁獲量が激減したという。

両氏は市民団体のメンバーらと桑名市の赤須賀港から漁船に乗り込み、揖斐川と、長良川河口堰の上流と下流でシジミの生育調査を視察した。河口堰下流では一部の川辺を除きシジミがほとんど採れないとされていたが、この日の採取量は近年の調査では最も多かった。赤須賀漁協関係者は「台風の影響で川に流れが生じたのが原因

ではないか」と推測。今本氏は「開門調査後の生態系回復に希望が持てる」と応じていた。視察終了後、両氏は地元漁師らとの意見交換会に出席。市民からは「開門調査で長良川にシジミが帰ってくる」と期待している「などの意見が出た。



シジミの生育調査を視察する今本博健共同座長(左端)と小島敏郎共同座長(左から2人目)＝長良川河口堰下流で

開門調査を巡っては、大村秀章・愛知県知事や河村たかし・名古屋市長が共同マニフェストに掲げたが、河口堰下流で工業用水を取水している企業への塩害の影響などを理由に鈴木英敬知事は否定的な見解を述べている。岐阜県議会も開門調査を批判する決議をしてい

る。小島共同座長は「この目で長良川の状況を見られてよかった。鈴木知事などから求められればいつでも説明に行きたい」と述べた。

【駒木智一】